

2017 年度石油連盟 油流出ワークショップの概要

名 称：油流出ワークショップ

今後発生しうる油濁事故の対応管理および作業に関する留意点

日 程：平成29年12月12日（火）

場 所：経団連会館2階 経団連ホール
東京都千代田区大手町1-3-2

開催の目的：

石油連盟は、流出ワークショップを「今後発生しうる油濁事故の対応管理および作業に関する留意点」をテーマに開催する。

この数十年、大型タンカーによる大規模油濁事故件数は統計上減少しているものの、現在の対応準備に油断することなく、保有する資機材・人材等の対応資源を最も効率的かつ効果的に管理する体制に目を向け、いざというときに最大限の効果を発揮できるようにしなければならない。

大規模油濁事故は、本年8月カフジ近郊のクウェート・ラスアルゾールにおいて、9月ギリシャにおいて、また10月にはメキシコ湾（マコンド油井の近く）においても発生したように、今後も発生する可能性がある。事故の対応管理および作業の留意点を把握しておくことは重要であり、Incident Command System(ICS)は、標準化された危機管理体制をさまざまな緊急時対応で利用し、油濁事故、火災、その他の緊急事態において対応部隊の高度なスキルを最大限活用する好例として、今回も紹介される予定である。

今回のワークショップでは、大規模事故対応の指揮経験を有し、今日の事故対応および準備の管理・作業システムの開発に寄与してきた、専門家・組織が一堂に会する。

油濁事故の対応管理および作業に関する最善の方法を追求するために唯一できることは、事故の管理体制の継続的な確認、そして対応準備である。本ワークショップが参加者にとってテーマの理解に役立つことを期待する。

なお、ワークショップで提起された問題について聴講者の理解を深め、疑問を解決するため、講演終了後、総合質疑の時間を設ける。

言 語：日本語、英語 同時通訳

主 催：石油連盟

事務局：石油連盟 基盤整備・油濁対策部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2

TEL：03-5218-2306

FAX：03-5218-2320

【プログラム】 ※下記プログラムには変更の可能性もございます。

12月12日（火曜日）

09:00 受付開始

09:40 開会挨拶 奥田 真弥
石油連盟 専務理事

09:50 来賓挨拶 経済産業省

10:00 **Mr. David Rouse (Keynote Speech)**
Oil Spill Response Limited (OSRL)
Business Transformation Manager

10:40 **Capt. Teerapol Phaparkhorn**
Division Manager for Movement and Dispatching Operations
PTT Global Chemical Public Company Limited
(Thailand)

11:20 **Mr. Alex Hunt**
Technical Team Manager
International Tanker Owners Pollution Federation(ITOPF)

12:00 13:30 —昼食—
経団連会館4階「ダイヤモンドルーム」において
ビュッフェ形式の昼食をご用意しております。

13:30 **Dr. I. Gusti Suarnaya Sidemen**
Deputy Director
for Technical and Environmental Regulation and Compliance
Directorate General of Oil and Gas
Ministry of Energy and Mineral Resources
(Indonesia)

14:10 **Mr. Jon Lay**
Consultant/Advisor
Jon Lay Consulting
Chairman of IOGP-IPIECA Oil Spill Response Joint Industry
Project
International Petroleum Industry Environmental Conservation
Association (IPIECA)

14:50-15:10 —コーヒー・ブレイク—

15:10 萩原 貴浩
一般財団法人海上災害防止センター
業務部長

16:00 総合質疑

16:30 閉会

以 上